

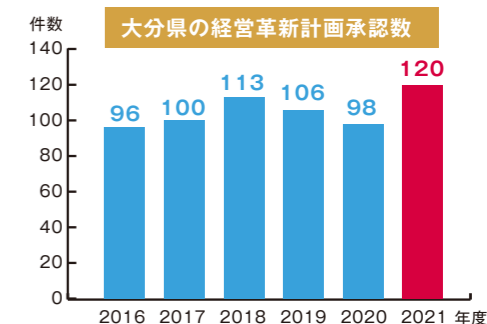


未来にトライ / 後編

— 時代に打ち勝つチャレンジ企業 —

中小企業庁の調べによると、大分県内の2021年度における経営革新計画の承認数が過去最多の120件となりました。コロナ禍をはじめ様々な経営課題にチャレンジする中小企業ならびに個人事業者の姿勢が伝わってきそうな勢いです。

前号に引き続き、みらいしんきんの100周年スローガン「みらいにトライ～笑顔でつむぐ百年金庫～」とリンクした特集をお届けします。



みらいにトライ
100周年
多角経営にトライ

株式会社 西石油
代表取締役 西 謙二 氏
代表取締役 西 貴之 氏
代表取締役 西 寛之 氏

本社 別府市流川通り18丁目 TEL.0977-21-2141
URL <https://nishisekiyu.jp/>



昭和の子どもたちにとってラクテンチは憧れの場所でした



別府を中心に県内9ヶ所でSSを展開



ホテル別府バスタルは2021年より運営



尊敬する沢木敬介氏の著書



現場にも出向く西 貴之代表取締役社長

“地元を大事にせんじ どげえすんの”の精神で

1929年にオープンした別府ラクテンチは、大分県民であれば誰もが幼少期に行ったことがある老舗の遊園地。「ゆりい・ぬりい・懐かしい」という最近のキャッチフレーズそのままに、レトロで楽しい観光施設です。

別府ラクテンチの経営権を2018年に取得したのが、別府市を中心にガソリンスタンドを展開する株式会社西石油です。同社ホームページを拝見すると、現在は「ホテル別府バスタル」等の宿泊施設、別府を代表する老舗菓子店「和菓子処 茶郎」、各種スポーツの合宿や練習に使用される「実相寺多目的グラウンド」等の指定管理と、多角的な事業展開をする企業グループであることがわかります。

「もともと当社は祖父の西楯夫が、1949年に流川通り沿いで新炭の販売店を創業したのが始まりです。以降、ガソリンスタンドを軸にした車関連事業だけでなく、喫茶店、不動産、クリーニング店など様々な事業にトライしてきました。業種はバラバラですが、基本的にお客様があってこそ成り立つ“サービス業”であることに変わりはありません」

こう話すのは、2020年から西石油の代表取締役社長に

就任した西 貴之氏。同社は西 謙二会長、西 寛之専務、それぞれが代表権を持つ3名体制で経営にのぞんでいます。近年は事業承継に関する相談が多いようですが、自社の業績拡大だけを目的にM&Aを繰り返しているのではなく、そこには大きな前提があるそうです。

「私は2016年の熊本・大分地震で地元観光が大きなダメージを受けたのを目の当たりにしました。この時、宿泊施設や土産店などに限らず、飲食、公共交通、リネンサプライ、そして当社のような車関連業者も含め、あらためて観光業の裾野の広さに驚きました。ですから地元無くしてはならないものかどうかを熟慮し、いかに地域に貢献できるかを考えたうえで決断に踏み切っています。まさに当社の合言葉である“地元を大事にせんじ どげえすんの!”です」

西社長の愛読書のひとつに、ラグビー指導者・沢木敬介氏の著書『ハングリーな組織だけが成功を生む』があります。「印象的な言葉『監督がここまで仕上げれば十分と満足すればチームの成長は止まる』を胸に刻み、いかに事業を通じ地域へ貢献できるかを考えていきたい」と西社長。西石油グループの挑戦は続きます。

みらいにトライ
100周年
リニューアルにトライ

開世通商株式会社
代表取締役 兼光 世治 氏
代表取締役 兼光 郷道 氏

(別府タワー) 別府市北浜3-10-2 別府タワー2階 TEL.0977-25-1755
URL <https://www.kaisei-gr.com/>



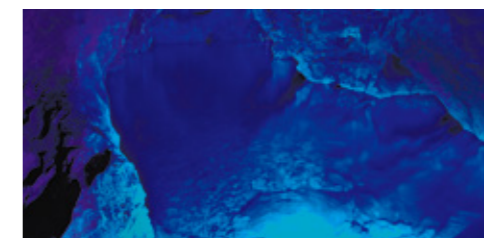
改修工事が進む別府タワー



昭和43年当時の別府タワー



館内に展示している別府タワーのミニチュア



水中洞窟ダイビングが楽しめる稲積水中鍾乳洞



兼光郷道 代表取締役副社長

地域から大きな期待を集める別府タワーの大規模リニューアル

大分県民のロマンと郷愁を誘う施設が、別府タワーではないでしょうか。1957年に日本で3番目に建てられた高層タワーは別府観光のシンボルとして愛され、2007年には登録有形文化財にも指定されました。タワー展望台から別府の街並みや別府湾など眼下に広がる眺めを楽しみ、別府観光の思い出として持ち帰る観光客もたくさんいるようです。

その別府タワーが大規模改修工事に入っています。2022年8月から展望台の営業を休止し(1階から4階の施設は営業中)、2023年1月27日にリニューアルオープン予定です。2021年からタワー運営を手がける開世通商株式会社の兼光郷道副社長は、「別府で育った私たちにとって、別府タワーは“あって当たり前”の存在です。老朽化していたタワーを改修することで、新たな別府観光の起爆剤にしたい」と語ります。

同社は兼光世治社長が、アミューズメント関連業と不動産業を軸にした会社として創業。現在は稲積水中鍾乳洞や別府アートミュージアム、城島高原パーク内ゲームプラザ等の観光事業、開世・九重メガソーラーパーク等のエネルギー事業、久部簡易郵便局や不動産運用等の金融・不動産事

業と多彩な事業を手がけています。兼光郷道副社長が代表を兼ねるカイセイ・プロパティーズ株式会社も、グループ会社として不動産仲介業を事業展開しています。

「改修により避雷針を付け替え、これまでの全高90mから建設当初の全高100mに復元します。タワーの色も建設当初の薄いグレーに戻し、バリエーションに富んだ夜間のライトアップ演出が可能になります。16～17階と2フロアの展望台は『海と山と湯のまち展望台』と名付けて宇宙トンネルを設置し、窓ガラスにはプロジェクター映像も投影できます。5階部分も『キタハマデッキ ～空と光のテラス～』として開放します」

他にもワクワクする企画が目白押し。今後の運営について、「市民の皆さんの声も取り入れながら、地域ぐるみで観光振興策に取り組んでいきたい」と、兼光副社長は意気込みを語ります。

稲積水中鍾乳洞では水中洞窟ダイビングを企画し、サウナブームを見越してテントサウナも設置。洞窟水風呂が珍しいと全国メディアにも多数取り上げられました。斬新な企画力とリーダーシップを発揮する兼光副社長の経営手腕に注目です。